

Letters Arpak

レターズアルパック

VOL.201

ISSN 2432-5295

2017年、
新しいアルパックでお届けします。

C O N T E N T S

◆特集：【新しい風】…01

・農×多様な連携で、地域も自分もワクワクしたい！
…02

・地域を、同志と変えていく、新しいアプローチに
挑戦しています。…03

・「サステナビリティ」への環境マネジメント分
野での新たな試み…04

◆今、こんな仕事をしています…05～08

◆近況&イベントのお知らせ…09～10

◆まちかど

・イケフェスで、お建築（たから）発見！！…裏表紙

（写真）大阪・中之島（大川）／こ来光カフェ

特集 新しい風

アルパックニュースレターは、
みなさんに、気軽に
お話するような感じの
〴〵お便り（レター）として、
新しい紙面の構成で
お届けします。

新しい年のはじまりに、「レターズ アルパック」が
新しい風を吹かせます。アルパックのスタッフ
が心を込めた、みなさんへのお便りです。

1. 耳寄りな「ニュース」をお届けします。

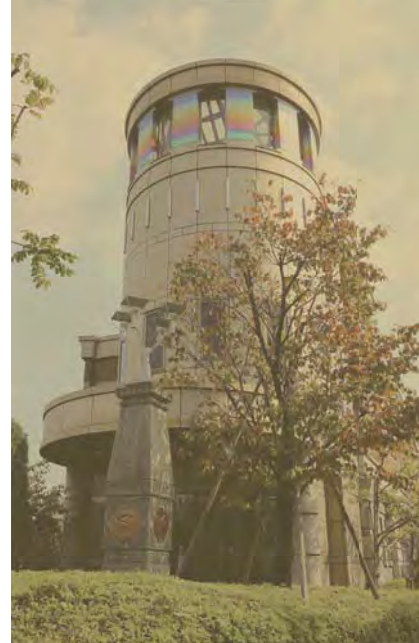
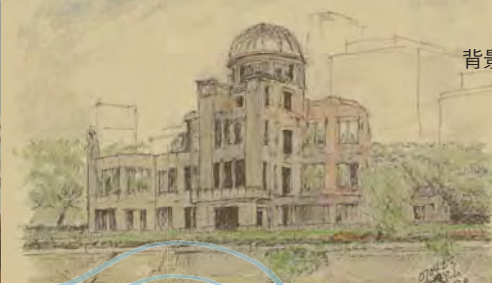
私たちが仕入れた、とっておきの「ニュース」
をお届けします。みなさんにとって耳寄りなも
のでありますように。

2. 私たちの「きんきょう」をお便りします。

スタッフや事務所の「きんきょう」をお便りし
ます。ほんの少しの間、私たちを思い起こし
ていただけますように。

3. みなさんの「お返事」をお待ちしています。

アルパックに「ひとこと云ってやろう」「リクエ
ストしてみよう」という方、「お返事」をお待
ちしています。





原田弘之・武藤健司・片山麻衣
地域産業イノベーショングループ



近年、グループが取り組んでいる特徴的なプロジェクトの一部を紹介します。

「農」×多様な連携で、 地域も自分もワクワクしたい！

「農」×住民連携

―徳島県松茂町「世界一のおいも・カフェ」
ものまち・おいもカフェ―

町民に呼びかけて、松茂町の特産品であるさつまいも（鳴門金時）について語るワールドカフェを開催しました。参加者は中学生や高校生から高齢者まで約100人。「世界一のおいものまち」にするためには何をしたらよいかアイデアを出し合い、非常に盛り上がりしました。

今後、それを踏まえて、町内の飲食店やスイーツ店と連携して、バレンタインデーの時期にさつまいも（を活用した料理やスイーツ）を贈る事業や、徳島空港で東京帰りのビジネススマンに、新しくおしゃれなさつまいもの食べ方を発信する試食イベントにつなげていきます。

農業の活性化や6次産業化は農家だけが担うのではもったいない。住民や事業者も関わり、地域の総合力で進めていけば、まちの誇りづくりやブランド力向上にもつながると思っています。

「農」×企業連携

―兵庫県佐用町「次世代型トマトプラント」

「うわっおいしい！甘さが濃いですね！」。大阪梅田のumekikiマルシェでのお客さんの声です。このトマトは今年3月頃から、佐用町の中学校跡地にあるトマトプラントから本格出荷されます。事業主体は産業用制御機械メーカーを親会社に持つDECSC（株）。

最近よくある完全制御型の植物工場ではなく、土のよさとハイテクの環境制御技術をミックスした土耕型のハウスプラントです。それがおいしさの秘密です。このプラントを活用した農業スタイルを全国に普及させて、地方創生に貢献したい。そのために、企業自ら生産、販路開拓、トマトジュースの加工などビジネスモデルを構築中です。

企業など新しい主体や技術とうまく連携し、地域に定着させていく、こうした新しい農業活性化を私たちも応援しています。

「農」×地域間連携

―「第1回全国ひまわりオイルサミット」

ひまわり畑に囲まれた会場で、ひまわりオイルサミット宣言が高らかに謳われました。

佐用町では、20年以上前からひまわりを育て、搾油機も導入してオイルを搾り、販売、加工品づくりを行ってきましたが、大きな成果が出ているわけではありません。

日本では、ひまわりの風景は非常に人気があるけれど、ひまわりオイルはあまり見られません。そのため、ひまわりを栽培している複数の地域が手を携えて、知名度などを高めていくためにサミットを開催しました。

まずは1市2町の参加ですが、全国にはひまわりの生産地は多く、これから輪を広げ、「ひまわりオイル」の認知度を高めていくのを応援したいと思っています。



私たちが地域の
方々と仕

事をする際に大切にしていることは、2つあります。1つは、その事業に「大義」があるか？社会的に意味があるかということです。もう1つは、「ワクワク」するか？ということです。おもしろい中身や展開にできそうか、魅力的な人やがんばる人との出会いがあるかどうかということです。今年も地域の方々をパートナーとしていい仕事をやっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



「魅力・持続のまちづくりチーム」という、一見何をす
るの？というチーム名を掲
げて、数年が経ちました。

手元に、立ち上げ時に作った事
業領域を示した図があります。そ
の先の展開を自分なりに構想した
もので、当時ばんやりと思ってい
た領域が現在では主要な業務を占
めつつあります。現在進行形の業
務を2つほど、ご紹介します。

ミナミ御堂筋の沿道企業に
よる会、「ミナミ御堂筋の
会」の運営を平成26年度から
支援。

沿道の価値向上を図るべく、あ
りとあらゆる手を総動員して取り
組んでいます。立ち位置は完全に
地域側にあり、地域の主体の一員
として動けること、行政も一ステ
イクホルダーとして巻き込んでい
けることが、取り組みの自由度を
上げます。今後はいかに事業規模
を広げ「マネタイズ」するか、投資
を呼び込む仕掛けを作るかが課題
で、道路などの公共空間を活用し
た事業展開を議論しています。こ
れまで多く取り組んできた行政の
受託業務とは異なる緊張感と、楽
しみがあります。

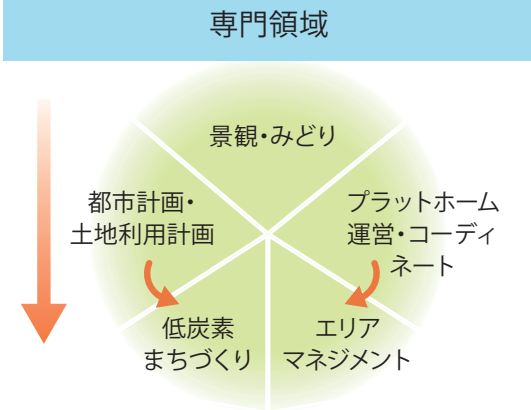
南港ポータタウンにおける
エリアマネジメントの検討。

咲くまちPTという地域在住の
若手でセンスあふれるメンバーと、
芦原橋UP MARKETなど各地
でのマーケットのプロデュースや
リノベーションを手がけるサルト
コラボレイティブの加藤寛之さん
とのコラボレーションにより、圧
倒的な緑に包まれた空間を活用し、
地域をブランディングし、変えて
いくきっかけとなるマーケットを
企画中です。

この他にもいろいろな地域に関
わっていますが、共通する私の実
感として、①地域の同志と一緒に、
地域の側から総意＋創意を絵（ビ

ジョン）にして示せるか、②地域の
抱える課題の解決、さらには価値
の向上に資する、ステイクホル
ダーが乗ってくる提案ができるか、
③その上で「プロ」が地域に関わり
続ける仕掛け（事業）を用意でき
る、が重要だと感じています。

一方で、どの領域、技術で「プロ」
としての力を発揮するのか。コー
ディネーターで終わらない専門性
が要求されます。私自身、専門性
については正直まだまだ試行錯誤中
ですが、これまで取り組んできた
景観から、みどり・建築・公共空間・
環境などに関心が広がっています。



ミナミ御堂筋の会の定例会、オーナーに事業を提案し、
実践へと持っていく。



南港ポータタウンの緑道を活用した仕掛けづくりを検討中。

馬場正尊氏が「エリアリノベ
ーション変化の構造とローカライ
ズ」(学芸出版社)の中で、「まちづ
くり」という言葉からの脱却など、
様々示唆に富むキーワードを述べ
ておられました。「まちづくり」が
目指す本質部分は変わっていない
と思いますが、そのアプローチは
大きく変化しています。地域側か
ら同志と変革を起こすプロセスに
力を注いでいきたい、同時に私た
ち自身も変わっていききたい、そう
考えています。

地域を、同志と変えていく、新しいアプローチに挑戦しています。

「サステナビリティ」への 環境マネジメント分野での新たな試み

畑中 直樹：
環境担当役員

さる11月4日にCOP21パリ協定が発効し、マラケシュでのCOP22において運用のルールづくりの議論が始まりました。

気候変動は、もはや環境にとどまらず、安全保障や経済の世界の主流派がメインテーマとして動き出した問題となっています。

21世紀後半の早い時期での温室効果ガス排出量実質排出ゼロに向け、カーボンバジェット（累積排出量に対し残り排出できる枠現ペースでは約20年）、カーボンバブル（使える枠は現化石資源資産の約1/7）、カーボンプライシング（社会への炭素価格の組み込み）、グリーンインフラ投資の加速など、社会経済の大転換が求められています。

このような背景のもと、私も環境マネジメント分野では、『サステイナビリティ マネジメントグループ』と改称するとともに、以下のような新たな試みを始めています。

脱炭素化のモデルとなる地域づくりのための豊岡への新たな拠点設置と具体化【A】

兵庫県や豊岡市等とともに設立し、地域の金融機関等とも事業パートナーとして連携している「ひょうご持続可能地域づくり機構（HSO）」

の事務局及び取組の具体化の拠点として、豊岡市に新たに「一般社団法人ひょうご持続可能地域づくり研究所（HSI）（仮称）」の年度内設立を進めています。また、環境省地球環境局への若手職員の出向派遣や地球環境戦略研究機関（IGES）が事務局をしているJapan-ICLPへの参画などにも取り組んでいます。

今後、新たな拠点において、様々な方々と連携しながら、脱炭素化の戦略やその具体化にチャレンジしていく予定です。



地域持続に向けた竹や茅等の生態系サービスの活用【B】

放置竹林対策が全国的に問題となつていますが、現在岸和田丘陵地区において、地元のNPO、鉄工会社、ボイラーメーカー等と連携して、竹の特性を逆手に取った効率的な集材、チップ化、クリンカが発生しない連

続燃焼、パウダー利用等に目処を付しながら、バイオマス事業化を進めています。関連して、淡路の洲本市五色町の温浴施設に、竹チップに対応したバイオマスボイラーが年度内には導入される予定です。

また、イヌワシ等生態系保全のためほぼ失われていた草原の再生（現在約40ha）等自然再生事業を続けている上山高原エコミュージアムでは、若手職人の増加で茅が不足している茅葺き屋根保存グループ「くさかんむり」と連携し、ススキの茅出荷の準備を進めており、まずは今年尼崎21世紀の森内に移築復元される旧芦屋の古民家の茅葺きに利用される予定です。

食品ロス解決や途上国での廃油活用【C】

マテリアルサイクルに関しては、特に上流側の食品ロス問題に着目し、子ども食堂等の社会課題解決と結びつけた取組の企画を検討しています。また、途上国での廃油処理とエネルギー問題の解決を結びつけた事業化についてもチャレンジしようとしています。

地域社会を支える人材を育てる【D】

持続可能な地域づくりに向け、冒頭で紹介した「HSO」での持続可能地域士（サステイナビリティオー



ガナイザー）をはじめ、高山市での木質バイオマス熱供給事業の担い手、今春開校予定の兵庫県立森林大学校への講師派遣、若手自治体職員と企業との勉強会のコーディネートなど、担い手の育成に取り組んでいます。また、次世代の育成も重要と考えており、HSOの修了生とともに地域の高校の授業（グローバル人材育成）の講師として出向いたり、幼児の木育の場である「ひょうご木づかい王国」の運営支援、地域オリジナル絵本（温暖化・エネルギー教育）の作成などにも取り組んでいます。



その19 地域に寄り添って、地方創生を考える。

国土主軸から離れていても人口が増加した自治体の成功要因を探りました

※詳細は、弊社ホームページに掲載しています。(http://www.arpak.co.jp/newsletter/201/05.html)



森脇 宏：
代表取締役社長

国土主軸から離れていても、企業誘致を図り、地域中心市のベッドタウンとして人口を増やした宮田村(長野県)と川北町(石川県)について、成功要因を考察しました。

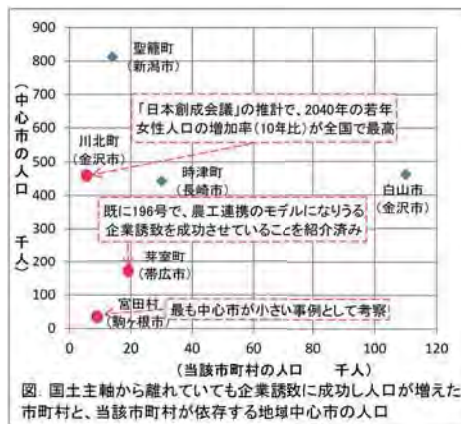
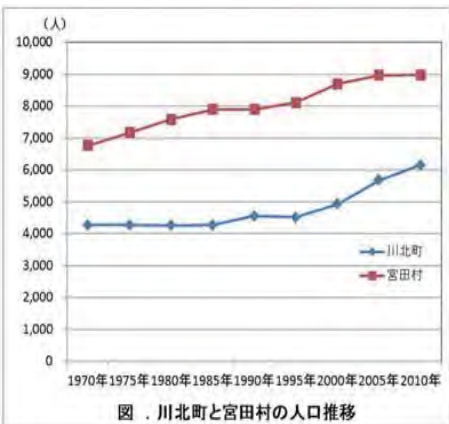
■宮田村―依存都市が小さくても発展できる事例

宮田村の人口は、概ね増加が続いています。戦後、疎開工場と下請け工場を中心に工業が発達し、中央自動車道の開通に伴い、工業団地への工場立地も進みました。通勤流動等を分析したところ、駒ヶ根市や伊那市に、夜間人口や昼間人口の増加を適宜依存しつつ、発展してきたと言えるでしょう。駒ヶ根市や伊那市のような人口規模の小さい都市でも、適切に依存(役割分担)すれば、人口を増やしていける可能性を示しているようです。

■川北町―企業誘致先行で生活環境を整備した事例

川北町の人口増は、工場誘致と軌を一にし、特に1995年以降、急増しています。人口や産業が集積する金沢市が近隣にあり、平地が多く水も豊かなことが、企業誘

致に効果的だったようです。また、通勤流動等を分析すると、町内就業者の大部分が金沢市等の町外に通勤しています。まず企業誘致を先行させ、財政力を強化し、その財政力を活かした子育て支援や生活環境整備を進めたことで、金沢市等のファミリー層を中心とする転入を獲得しています。



大阪市景観計画の見直しが進められています。

坂井 信行：
都市・地域
プランニング
グループ



大阪市の景観施策のはじまりは、昭和9年に御堂筋沿道や中之島などが美観地区に指定されたときに遡ります。

その後、都心部の主な幹線道路沿道の建築物のデザインを誘導する建築美観誘導制度の導入、都市景観条例の制定とそれに基づく景観形成地域の指定をはじめ、多くの取り組みが進められてきました。平成18年には景観法に基づく景観計画が策定されました。この時に美観地区の指定は廃止されたものの、既存の制度が法に

基づく制度として体系化されなかったことから、法、条例、要綱に基づく様々な施策が並存する複雑な施策体系になっていました。近年の景観をめぐる状況の変化等に鑑みて景観計画が変更されることになり、アルバックでサポートさせていただいています。

現在の計画は目標や方針、全市一律の行為制限の基準がコンパクトに記載されたシンプルなものです。先般のパブリックコメントで公開された見直し案には、施

策の前提となる景観特性が詳細に記載され、行為の制限が詳細化されるなど、冊子としても100ページを超える充実したものになっています。

その他、景観計画区域の区分と重点届出区域の指定、屋外広告物に関する行為制限の位置付け、地域の自主的なルールづくりと運用への新たな支援の仕組みなどが変更のポイントで、景観施策としてかなりのパワーアップです。昨年9月にはこれからの大阪の景観を考えるシンポジウムも開催され、公民連携の景観形成に向けた機運も盛り上がってしました。

現在は詳細化された基準を運用していくためのガイドラインを作成中です。景観の基準は抽象的なものが多いのですが、これをそれぞれに特性の異なる敷地においていかに適用していくのか、その手順についてわかりやすく解説するべく、鋭意検討を進めています。計画の正式な決定と合わせてこちらにも公開されることになり、ますのでご期待ください。





ウマイもん満載の「東大阪ショウテンス」の情報誌



「東大阪ショウテンス」の情報誌の中間

“東大阪ショウテンス”は、 「ウマイもん」で、トライする！

高田 剛司：
地域産業
イノベーショングループ

緑の芝、楕円のボール、天高くそびえるゴールポスト。ラグビーにちなんだお菓子・お弁当を食べて、気分は早くもワールドカップ。

誰もが一度は聞いたことがある、高校ラグビーの聖地「花園」。2015年のワールドカップは、強豪の南アフリカに対し日本チームの劇的な勝利で盛り上がりました。次の2019年は日本で開催され、東大阪市の花園ラグビー場も、国内13の試合会場の一つとして熱戦が期待されます。国内や海外からたくさんのお客さんを迎えることになることでしょう。

今回、ラグビーにちなんだお菓子やお弁当を作っている12のお店と東大阪カレーパン会（カレーパンがラグビーボール

の形に似ている）を紹介する冊子作成のお手伝いをしました。聖地「花園」をアピールする絶好の機会として、市内の商店主がスクラムを組んだPR誌です。

12店舗すべてを取材で訪れましたが、どの店主さんもラグビーや東大阪、そして商品に対する思いは強く、しかも美味し！心強いファイフティーンが揃いました。冊子は、東大阪市のホームページにも掲載されていますので、ぜひ一度ご覧になって、お店に足を運んでください。さっと全部を制覇したくなるハズです。



大垣駅南口第一種市街地再開発事業 暮らしとにぎわいのある「街のみなと」づくり。

木下 博貴：
名古屋事務所

大垣駅南街区第一種市街地再開発事業「スイトスクエア大垣」が竣工しました。

【はじめに】

大垣市は、岐阜県の中西部に位置する人口16万2千人で県内第2位の人口を有する都市で、名古屋方面への通勤、通学に大変便利な場所となっています。

【事業経緯】

当事業の施行区域では、駅通りに面する老朽化した防災街区ビルの所有者がビルの建て替えを検討しており、建替え資金を積み立てていました。しかし、小さな区域での建て替えは事業採算が合わず、平成18年に商工会議所に相談したことをきっかけに、隣接する区域も取り込んだ市街地再開発事業の検討が始まりました。

平成21年1月に大垣駅南街区市街地再開発準備組合を設立して事業の本格的着手となりました。

その後、平成24年度には都市計画決定や大垣駅南街区市街地再開発組合を設立し、平成25年度には除却工事、施設建築物に着手、そして平成28年9月には竣工を迎えました。

【事業概要】

従後の敷地は、市道を挟み東敷地と西敷地の二つの敷地で構成され、東敷地を駅ロータリーの機能を補う広場用地及び個人地権者への換地として、西敷地を再開発ビルの敷地としています。



施設建築物は、西敷地に17階建の北棟（マンション）112戸、子育て支援施設、商業・業務施設、3階建の南棟（商業・業務施設）、5階建の西棟（駐車場）市営自転車駐車場（の3棟で構成されています。

竣工した建物は、水の都・大垣にちなんで「スイトスクエア大垣」とされました。都心居住の促進や駅前の利便性の向上、中心市街地の賑わいの創出を図り、今後の大垣駅南口の活性化につながっていくことが期待されます。



町家調査の様子：1軒ずつ現場で確認

京町家の「いま」と「これから」 京都市内にある京町家の 「いま」を調査中。

戸田 幸典：
地域再生デザイングループ

調査は、昨年9月末から12月中旬にかけて、約40人の調査員が毎日交代で京都の街中を歩き、京町家の残存状況や空き家の判定、滅失・解体後の用途について写真を記録しながら実施しました。調査にはスマートフォンを活用、現場からクラウドのデータベースに調査データを送信（セキュリティ対策実施した上で）することでリアルタイムに確実な調査データの記録を行いました。

アルバックでは、京都市が平成20・21年度に実施した調査で確認された約4万8千軒の京町家について、京都市から委託を受け現況調査を実施しました。

調査は、昨年9月末から12月中旬

旬にかけて、約40人の調査員が毎日

交代で京都の街中を歩き、京町

家の残存状況や空き家の判定、

滅失・解体後の用途について写

真を記録しながら実施しまし

た。調査にはスマートフォンを

活用、現場からクラウドのデー

タベースに調査データを送信

（セキュリティ対策実施した上

で）することでリアルタイムに

確実な調査データの記録を行

いました。

現場から調査情報を送信する
調査データベース



調査結果を眺めていると、市

内中心部では町家の保全や活

用が一定行われていることに對

し、周辺部ではこの約7年で滅

失した京町家の割合が多い印

象を受けます。

今回の調査は地域に適した

保全・活用や環境整備の手法、

また適切な管理方法について

検討する土台となるものだと

考えています。

まさに今、京都市では委員会

を設置し、今後の京町家の保

全・活用の施策や取り組みにつ

いて条例制定も視野に検討を

進めています。アルバックはそ

の検討への支援にもたずさ

わっています。



ミナミ御堂筋の空間再編が完成！ 隈研吾氏講演会を開催！

絹原 一寛：
都市・地域プランニンググループ

車重視から人重視の空間への再編が進められてきた御堂筋・千日前通以南のモデル区間整備。ついに、昨年の11月10日、完成を迎えました。

地元の町会・商店会に加え、アルバックが運営支援するミナミ御堂筋の沿道企業からなる「ミナ



ミ御堂筋の会」、関連まちづくり団体とで「協議会」を組織、大

阪市と協議を進めてきました。

当日は完成記

念のテープカッ

トを実施し、「世

界に誇る安全・安

心で快適なメイ

ンストリート」を

宣言。安全安心な

通行と駐輪防止

を訴えるキャン

ペーンを官民で



展開し、テレビ・新聞各社にも報道頂きました。

これから課題を検証の上、沿道のマネジメント方策や、さらなる延伸の可能性などを議論していきます。

また、2月24日（金）にはミナミ御堂筋の会が主催で、新国立競技場などを手がける建築家、隈研吾氏をお招きし、講演会を開催することとなりました。

御堂筋は今年で生誕80周年。空間整備（ハード）とマネジメント（ソフト）の両輪で、都市格を高め文化を涵養するメインストリートへと、大きな飛躍を図っていきます。

御堂筋の動きに、これからもご注目ください。



スポーツムーブメントと自治体の取組

～滋賀県・県下自治体でのスポーツ関連業務の紹介～

石井 努:

地域再生デザイングループ

平成32年東京オリンピック、パラリンピックの開催が決まり、日本全体で「スポーツ」が熱くなっています。各地の自治体においてもスポーツに関する取組が盛んになりつつあります。

国では、平成22年にスポーツ立国戦略が策定され、翌23年には、50年ぶりにスポーツ振興法が改正され、「スポーツ基本法」が施行されました。基本法には前文があり、「スポーツは世界共通の人類の文化である」と記され、オリ・パラ開催に相応しい内容になっています。

また、基本法では、各自治体において、スポーツ推進計画の策定を努力義務とし、各地でスポーツ推進計画の策定が相次いでいます。

アルパックでは、滋賀県下の自治体のスポーツ推進計画の策定を支援しており、近年では、平成25年度の米原市でのスポーツ推進計画をはじめ、27年度の大津市、草津市、今年度は彦根市の計画策定をお手伝いしています。

スポーツ推進計画では、「ライフステージに応じた運動・スポーツができる環境づくり」を

はじめ、「みるスポーツ」、「支えるスポーツ」の取組、近年では「健康増進やツーリズム」の視点、そして、「障害者スポーツ」の視点での取組が盛り込まれることが多くなっています。

また、滋賀県では、平成36年に国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催が内々定しており、スポーツを取り巻く環境が慌ただしく動いています。我々も、平成25年度の主会場の選定調査検討業務、平成26年度の県の社会体育施設の管理に関する調査、27年度からは、各競技会場の活用可能性調査に移り、ウェイトリフティング競技会場、今年度はセーリング競技会場の調査をお手伝いしています。

今のスポーツ熱を一時的なものにしないためにも、スポーツを地域づくりのツールとしてうまく活用し、地域にスポーツが定着していくよう、微力ではありますが、しっかりと調査を支援したいと思っています。そして、私自身も、スポーツを楽しむ生活を実践できればと思っていますが・・・これがなかなか・・・●

九州事務所の業務紹介

山崎 裕行:

九州事務所(株)よかネット

九州事務所では、所長の山田、専務の山辺ほか、現在所員7名で、福岡県内をはじめ、各地で地域づくりのお手伝いをしています。

最近の業務としては、公共施設マネジメントや空き家に関する業務、公営住宅に関する業務、地域のブランド化やプロモーション、観光振興に関する業務、地域コミュニティや防災・減災に向けた取組に関する業務が多

いように思います。

ご紹介した業務は、それぞれの所員が力を入れていきたいと思っています。と大きく関係しています。これまでに築いてきたネットワークを駆使し、あらゆるご相談、業務に対応するとともに、1人1人の得意(専門)分野の磨き上げに努めているところです。

また、昨年からは大阪事務所と連携した業務も増えており、環境分野や産業支援分野など、新しい分野にも関わり、業務の幅に広がりを見せています。大阪と福岡は新幹線で2時間半の距離です。京都、大阪、名古屋、東京、九州の各事務所の連携をさらに進め、活動の幅を広げていきたいと思っています。

最後に、昨年4月14日、16日に起きた熊本地震は、平成17年の西方沖地震で経験した揺れ以来のものを感しました。今被災地では、復興に向けて徐々に歩みを進めているところです。熊本には美味しい食べ物、温泉がたくさんあります。是非、皆さん九州・熊本にお越しください。●



雄大な阿蘇山



門で切り取られた絵のような風景(中院)

小江戸川越の「喜多院」界隈の 魅力まちあるき

依藤 光代：
都市・地域プランニンググループ

川越市の喜多院周辺で、11月13日に景観まちあるきを開催しました。喜多院は、徳川家康のブレインとも呼ばれた天海が住職を務めていたところに大きく発展した、歴史ある寺院です。周辺には茶屋町や門前町などもあり、

今でもその風情を感じることができます。
近隣住民の参加が多く、歩いた後の「交流会」では、改めてじっくりとまちなみを見て再発見したことなどを、幅広く話し合いました。「この辺りの歴史を発掘して受け継いでいきたい」「地域の治安維持も景観も、日々の地道なゴミ拾いから」といった発言があり、景観まちづくりへの意欲が感じられました。これからワークショップをしながら、都市景観形成地域の指定に向けた取り組みをお手伝いしていきます。



景観重要建造物に指定された蔵



佐用町ひまわり館：ブランド開発から



天満宮正門：大阪天神橋にあります



緒方洪庵像：適塾（アルパックすぐ隣）

新しいウツワに、
今までと違う
気持を盛ろう。

わが事務所のある天神さん界隈とまたひと味、流派が違う大阪らしいところ（文化・歴史・食・景観など）が山ほどある船場にアルパック（なぜか、呼び捨てです）が引っ越してきて、はや半年が経ちます。

大阪ビジネスパーク（OBP）の時も「それなり」でしたが、この船場に来て所員さんの働きぶりや、雰囲気、ご飯の食べ方など、気のせいかなんか変わった感じになった方が見受けられます。いや、ほんと。人間は「環境の動物」でいろいろなものに影響を受け、日々暮らしています。大阪商人は「世間よし」を大切にしている、まず世間があつてこそ生業が成り立つとして、世間（環境）のこと大切にしてきました。わが天神エリア組もそのことを忘れず精進していきたいと思っています。

で、船場の商人の心を持つ、「大阪・船場のコンサルさん」と親しみを込めて呼ばれる日がもうそこまで来ています。（上から目線ですかね…）

なにわ繁盛訓（アルパックと協力して作成支援した大阪市の事業者向け自主環境管理の手引き）



鳥山大樹：（株）バード・デザインハウス（寄稿）

近況 & イベントのお知らせ

これからの地域づくりセミナー

畑中 直樹:大阪事務所副所長

一地域に寄り添う地方創生をめざして一をスタートしました。

P R O G R A M

◆第1回:

【協議調整型の建築物誘導とまちづくり】

平成28年12月6日(火) 18:30~20:30

◆第2,3回:

【地方創生に向けた多様なアプローチを考える(仮)】

【地域発の事業がまちを変えていくエリアリノベーション(仮)】

平成29年1月~2月(準備中)

このたび、私どもは、経営理念に掲げる社会的使命「持続可能な地域づくりへの貢献」の一環として、標記セミナーを開催いたします。

本セミナーでは、各分野で活躍されている先駆者の方々を招き、先進的取組の紹介と地域づくりの転換となる考え方等についての話題提供いただくとともに、各々の地域において多様な課題解決に取り組まれている参加者の皆さまも交え意見交換し、地域に寄り添う地方創生をめざした地域づくりのきっかけづくりの一助になればと考えております。

自治体関係者、研究者、事業者、NPO等地域づくりに取り組む皆様の幅広い参加をお待ちしております。

※セミナーの詳細については、ホームページでご案内します。

第10回 CITÉまちづくりシンポジウム

～ディスティネーション都市大阪をめざして～
訪れたい大阪を知る

中塚 一:都市・大阪事務所所長

羽田 拓也:都市・地域プランニンググループ

◎日時:2017年1月31日(火)

◎午後3時~午後5時30分(開場:午後2時30分)

◎会場:インターコンチネンタルホテル 大阪HINOKI(2階)

◎主催:CITÉさろん

※シンポジウムの詳細及び申込みについては、CITÉさろんのホームページをご覧ください。(http://citesalon.jp/)

◎お問合せ・連絡先:CITÉさろん事務局 雨水・坂

〒514-0055 大阪市中央区船場中央2-2-5 船場
センタービル5号館2階(一財)都市技術センター内

◎TEL:06-4963-2011 FAX:06-4963-2397

E-mail:info@citesalon.jp

地域再生デザイングループがお手伝いしています。

編集後記

2000号の歴史と伝統(?)の重みを感じつつ、新しい試みに勇気を持って一歩踏み出しました。片思いの手紙は淋しいものです。お返事お待ちしています。(坂井)

新しいアルバックを感じていただけただけの201号にしよう!と取り組んだ誌面のリニューアル。そして、アルバック本体や自分自身がどのようにならなっていくのか!?乞うご期待!(嶋崎)

もっと手に取ってもらえる、もっと読んで楽しくなる、そんな冊子を目指そうという声からはじまった今回のリニューアル構想。アルバック50年を機に、ようやく実現できました。今後も進化し続けるレターズにご期待ください。(長沢)

編集委員になってから、早24年。この間、紙版印刷からDTP編集、ホームページの開設、何度かの紙面リニューアル。これからも「新しい風」を感じるお便りをお届けしたいと思います。乞うご期待!(中村)

年の瀬の編集です。お手紙感アップでまると刷新し、お手元に届くのは酉年です。鳥といえば、賀茂川には、たくさん冬鳥が遊んでいます。当家謹製の鴨鍋やなんぞに……お腹減ってきました。(廣部)

読者の方の目線を大切に紙面リニューアルを試みました。皆さまのご意見でブラッシュアップしていきたいと思っています。(鮎子田)

郵送でもお届けしているアルバックレター。誌面の大幅リニューアルと合わせ、封筒もリニューアルです。受け取った時から開けたいくなる、わくわくする情報を発信していきます!(武藤)



組構造のような表情を魅せるRC造

イクフェスで公開されている建物、面的に広がって位置しているため、建物間の移動を余儀なくされます。まちを歩いている際、思わず発見や

増見 康平：
建築プランニング・デザイングループ

このイベントは、船場を中心に「生きた建築」が一斉に特別公開されるものであり、今回で3度目の開催です。アルパックが船場に移転して、はや3ヶ月が経ちました。平日はサラリーマンが忙しく歩き、休日

お建築の発見は、
たちから

まちの愛着を育む。

はほとんど人がいないまちという印象がありますが、この2日間は、まちを歩く人々の層が多種多様になり、至る所でイクフェスのパンフレットを持つ人が見られ、普段行列なんてできない場所に行列ができるといった、いつもとは全く異なるまちに変わります。

サプライズと出会うことが私の最大の楽しみです。

公開建物を渡り歩くことで観る目が洗練されるのでしょうか。普段何気なく通っている道の何気なく見ていた建築や風景に興味を抱いたり、面白いなと思ったら新たな発見があります。このような過程で新しく発見できた建築には、まるでお建築を発見したかのように特段の喜びや感動を感じます。

来年のイクフェスでは、どんなお建築との出会いがあるのでしょうか。



イクフェスで、お建築発見!!

たちから



近未来を想像させる外観の住宅



「レターズアルパック」は、ホームページからご覧いただけます。

アルパック (株) 地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates・Kyoto
<http://www.arpak.co.jp> E-mail: info@arpak.co.jp

本社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町82 TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所 〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7日本生命今橋ビル10F TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦1-19-24名古屋第一ビル6F TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

東京事務所 〒102-0074 東京都千代田区九段南3-5-11スクエア九段ビル1F TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221

九州事務所 〒810-0802 (株)よかネット:福岡市博多区中洲中島町3-8福岡パールビル8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128



この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。